

# 「横浜中区にコミュニティー FM 放送局を」



平成 26 年 1 月 31 日

横浜マリン FM 準備室

## 目次

■はじめに■	3
■コミュニティーFMとは■	
1 コミュニティーFM開局の目的	4
1) 地域の需要に応えるための放送	
2) ミュニティーFMの有るべき姿	
2 コミュニティーFM開局のコンセプト	4
3 災害時に関して	5
1) 災害ボランティア	
2) 防災情報協力店	
3) 市長、区長からの生の声	
4) リスナーからの情報	
5) 必要とされる情報	
6) 外国語放送	
7) その他	
4 番組内容	7
1) 災害専用放送局ではいけな	
2) 番組プログラムイメージ	
5 開局に必要な手順	8
1) 周波数検討調査（潜在電解強度測定）	
2) 総務省へ申告	
3) 免許申請概要書の作成	
6 予算等	9
1) 事業収入	
2) 年間収益期待数	
3) 支出	
7 その他	11
1) 主な事業	
2) 大都市での問題点	
■最後に■	12

## ■■はじめに■■

私が仕事で福島のラジオ局「ラジオ福島」と「FM POCO」へ伺ったのは、震災から3ヶ月経った時です、すこし落ち着いたといえ余震や放射能など心配事の多い時期でした。震災時の話など詳しく聞き、地域ラジオの重要性を感じ私の地元にも必要なのではないかと考えました。

自治体をはじめ防災対策が盛んに行われていますが、従来の方法では折角の緊急情報が確実に伝達出来ないといった課題が見受けられます。また海に面した中区では一刻を争う情報伝達も必要になります。そこでコミュニティーFM局の必要性についてご提案させていただきます。

災害時には停電になる可能性や避難しなければならない時があり、コンパクトで持ち運べるラジオが地域住民の助けになると考えられます。

笹原延介

## ■■コミュニティーFMとは■■

地理的なコミュニティーを放送対象地域とする放送（小エリアを対象とするFMラジオ局）

日本では1991年（平成3年）に開局が認められ2013年（平成25年）10月現在277局が開局している（総務省HPより）

電波の出力：上限20ワット 平地の場合およそ直径7キロ～15キロ

「臨時災害放送局」を併設する形で送信出力を増大することがあるようです

〇〇〇 横浜市 開局実績 〇〇〇

青葉区 FMサルース 平成14年10月20日 開局

戸塚区 エフエム戸塚 平成21年 4月29日 開局

（中区が開局し、FMサルース、エフエム戸塚と連携がとれば、横浜市に広く防災網が出来ます）

# 1 コミュニティーFM開局の目的

## 1) 地域の需要に応えるための放送

くらしに密着した地域情報や防災情報を提供することにより、住民の豊かな生活の向上と安心安全のまちづくりを目指し、商工業・観光・経済・文化等の各分野における有効な情報を発信して地域の活性化に役立てます。

## 2) コミュニティーFMのあるべき姿

大手メディアでは、スポーツの結果、殺人事件、首相の言葉、海外のニュースなどリアルタイムで聞く事が出来るが、自分の住んでいる町の情報はほとんど分からない。地域放送局も情報は発信しているが放送時間が限られているため情報の偏りや人々が正確な情報をキャッチ出来ていない事が多い。リアルタイムに地元で起きた火災、事故、災害などの情報が必要である。また、自治体ホームページや広報誌はリアルタイムではないし、情報を探すのが大変である。

広域をカバー出来ないピンポイントである事が逆に細かな情報を発信出来、地域のメディアとして最大の強みなのである。

その他、尋ね人 尋ねペットなどもコミュニティFMで解決している実績があります。

# 2 コミュニティーFM開局のコンセプト

地域社会に住む人と人、人と店、人と企業、人と学校、人と公共機関、人と団体、人と病院、人と行政などのコミュニケーションを成立させるメディアである。

- 1) 街の新しいシンボルである事
- 2) 地域活性化の大きな役割
- 3) 行政と市、区民の新たなパイプ役
- 4) 街全体のイメージアップに貢献する
- 5) 協力的な防災情報提供手段

### 3 災害時に関して

阪神淡路大震災、新潟中越地震、東北地方太平洋沖地震（津波）でコミュニティーFMの有効性が実証された事により、今後ますます重要になるメディアである。

また海が近く、神奈川、横浜の中心の中区には特に必要である。

自然災害以外でも、火災、事故、犯罪、行方不明、交通情報。ピンポイント天気や緊急割り込み放送の活用。

大手ラジオ局は災害の状況を伝えるが、コミュニティーFMは「今、自分はどうしたら良いか？」を伝える。

たとえば、新潟の「ラヂオは〜と」では消防署からの火災情報をすべて放送し、夜間は緊急割り込みで放送し、小さな災害でも災害放送を実践して非常時にきちんと対応出来る様にしている。

人命に関わる事です、これが出来なければコミュニティーFMは意味有りません。

#### ◇リアルタイムの情報収集◇

地域自治体からの情報と瞬時に現場のレポートが必要です

#### 1) 災害ボランティア（消防団、スポーツ推進委員、青少年指導委員、町内役員 他）

”防災パートナー”として災害時に情報提供、レポーターとして活躍してもらう  
（日時、現在の居場所、発信者の所属、名前 10秒程度で 情報を伝達する技術習得）

#### 2) 防災情報協力店（番組スポンサー 株主企業 取材した商店）

FM局との連携で、被災時に店舗の回りの状況を報告してもらう。また、市民からの情報提供の窓口になってもらう。

「一人の情報は皆の情報、一緒に作るコミュニティーFM」

#### 3) 市長、区長からの生の声

2004年新潟水害時に、新潟の「ラヂオは〜と」で三条市長からの割り込みメッセージが。

「みなさん、もう少し我慢してください」「今、自衛隊が駆けつけている」

この言葉に勇気づけられたとの声が多く有りました

#### 4) リスナーからの情報 (生活物資の情報 / SOS情報 / 安否情報)

東北地方太平洋沖地震の時は「福島ラジオ」「FM POCO」などではリスナーからの情報が役に立ったと聞きました。大手メディアのヘリコプターでの映像よりも、被災した住民にとって、「どこが危険で、どこが安全何か」「水や食料はどこで調達するのか」「交通はどうなっているのか」が地域住民には必要である、また停電情報なども正確に把握できる。

#### 5) 必要とされる情報

2004年 新潟中越地震後のビデオリサーチ社の調べによりますと、地震直後は「一体どのような地震だったのか」「余震の可能性は」「どこでどのような被害なのか」「身内、知人の安否は」といった現状の把握、これからの危険性、安全に関する情報で、地震発生1週間後は余震の心配は相変わらずであるが「ライフラインの復旧」「避難所」「仮設住宅」など今後の生活の情報に対する要求が高くなっています。

その他、中区は観光地であるため、災害時には帰宅難民者が数多く予想される。

このような要求に対して情報を発信出来るのはコミュニティーFMでしか出来ません。

#### 6) 外国語放送

中国語、韓国語、英語、その他(タガログ語、スペイン語)

行政広報、防災関連 また、災害時には地域に多い各国の音楽も流す(基本は人の話を)

「阪神淡路大震災のとき母国の音楽が流されいやされた人が多かった」

#### 7) その他

##### \* 緊急告知FMラジオ

FMくらしき 倉敷ケーブルTVが開発

倉敷市では障害者、高齢者、児童らの施設に2007年880台、長岡市では2009年9000台導入している。電源がOFFの状態でもFM局が発信する信号によってラジオが起動して大音量でなり始める、また自動的に放送がなり始めるだけでなくライトが点灯するため視聴障害の人への告知にも有効である。ライトが点灯するということは停電時にも有効である。

コミュニティー放送局から発信する電波で防災無線の高価なセンター装置も必要ないので、防災行政無線よりも安価で行政負担も軽くなる。(価格9000円前後)

##### \* 設置場所

いざという時のコミュニティーFMですので、停電、水害、地震など最悪の事を考えて、設置場所を検討する事が大切です

## 4 番組内容

### 1) 災害専用放送局ではいけない

日頃から地域の生活者に聴かれるラジオにしなくては、いざという時にラジオのチューニングをあわせてもらえない。つねに地域とのコミュニケーションを成立させて、まちを元気にするメディアである事が重要である。

### 2) 番組プログラムイメージ

- 防犯 / 防災
- 行政広報 外国語（英語/中国語/韓国語/タガログ語）「今日のやさしい日本語」
- 市、区からのお知らせ
- 知っておきたい行政の制度
- ピンポイント天気予報
- 交通情報
- 学校情報（催しもの イベント 周年行事 募集事項）
- 地域イベント情報
- 商店街情報（お買い得レポート）
- 人探し、動物探し
- プロスポーツ情報
- アマチュアスポーツ情報
- 落語、演芸
- 地元アーティスト紹介(毎月応募によりパワープレイ)
- 音楽番組
- 映画の話
- スクールDJ（学生体験）
- 市民と語る（市長、区長）
- 小中学校 今日校歌（卒業生も懐かしく聴ける）

## 5 開局に必要な手順

### 1) 周波数検討調査（潜在電解強度測定）

開局する予定地にコミュニティ放送局を開局するための電波が有るかどうかの調査。  
この調査は機材と技術が必要で専門の会社に依頼し、周波数検討報告書を作成してもらう。

### 2) 総務省へ申告

使用可能な電波があった場合コミュニティ放送開局趣意書と周波数検討報告書を総務省へ提出。

### 3) 免許申請概要書の作成

免許申請→審査→予備免許→法人の設立→確認書交付→工事落成→落成検査→運用開始





## 6 予算等

コミュニティーFMは残念ながら赤字が多いメディアとされています。大手メディアでさえ広告が減少しています。

コミュニティーFMでの失敗は、大手メディアの物まねであったり、無料ボランティアDJに任せ過ぎて「開局のコンセプト」からかけ離れ、スポンサーやリスナーが離れて行く事に原因が有ると考えます。「開局のコンセプト」をしっかりとて、地域住民にとって楽しいラジオでなければいけない。

地域のメディア事業として維持して行くには収益、運営をしっかりと考えなければ、結局は地域のためになりません。

### 1) 事業収入

#### ① 広告 (CM)

大手メディアのCMなどに広告が出せない商店などでも気軽にCMを出せる金額に設定する。  
スポットCMなどは20秒1000円前後からの設定  
仮に20秒1000円に設定した場合1時間に5回 1日15時間放送した場合は75回-2回

1,000円×73回=73,000円

#### ② 番組スポンサー

番組スポンサーもCM同様に低価格で提供を考えます

54分番組 20,000円～

4分番組 5,000円～

1日15時間放送とした場合

(20,000円×15回) + (5,000円×14回) = 370,000円

#### ③ 時報スポンサー

コメント、ジングル付き 1,500円～

1日14回

1,500円×14回=21,000円

#### ④ フリーペーパー【年4回】

タイムテーブルをフリーペーパーとして、視聴可能な地域に配布する。

フリーペーパーには広告やクーポン、またラジオで紹介した商品の事など載せる。

## ⑤ FM局ファンカード

- \* FM局ファンカードを制作してリスナーに会員になってもらう（無料）
- \* ファンカード加盟店を募り、会員が来店時に特典を付けてもらう（割引、サービス）

加盟店は有料で月額の支払いをお願いするが、ラジオで突撃取材をしたりCMを入れたりして、来店数を増やす事に協力する。またFM局ファンカードでの特典が魅力的な物であれば、来客は期待出来ると信じています。

## 2) 年間収益期待数

前ページの①と②と③の金額設定の場合（P9の仮金額での計算になります）  
CMと番組スポンサー、時報で 1日 464,000円 1年で169,360,000円。

ただしこれは、番組スポンサー、CMスポンサーがすべての時間に付いた時の数字ですので、ラジオ局を理解してもらうための営業が必要です。また、放送時間帯によりCM、番組料金の変更も考えられます。

地方局と違い中区には企業や商店街など沢山あり、可能性があります、またコミュニティーFMの必要性を地域の企業、商店の方に理解してもらえると信じております。

放送（電波使用料）以外の収益は  
ファンカード加盟店/フリーペーパー、HP等 広告/番組制作費/CM制作費/など

## 3) 支出

支出に関しては規模により変動します。コミュニティーFMの平均で開局資金が5,000万～6,000万、毎年のランニングコストが4,000万前後と想像されます

### ◇ 開局に必要な資金 ◇

- 1 周波数検討調査（潜在電解強度測定）
- 2 創業費（会社設立/登記料/PCなどの事務用品）
- 3 本社 演奏所（スタジオ） 内装設備費
- 4 スタジオ設備費
- 5 サブスタジオ設備費
- 6 送信所設備工事（アンテナ設置場所）
- 7 送信所システム設備（送信台、緊急放送システム、アンテナ工事）
- 8 取材用機材
- 9 音源制作費

## ◇ ランニングコスト ◇

- 1 人件費
- 2 本社 演奏所（スタジオ）賃貸費、等
- 3 機材メンテナンス
- 4 番組、CM制作費
- 5 フリペーパー、カードなど放送以外の制作物
- 6 その他、取材経費、事務経費など

## 7 その他

### 1) 主な事業

- (1)放送法に基づく超短波（FM）放送事業等
- (2)放送番組及びコマーシャルの企画・制作及び販売 など

#### 番組放送時間

午前7時から午後10時まで15時間放送 すべて自主制作番組

#### 放送内容

行政情報、災害時等の緊急情報、生活・社会情報、文化・教養情報、娯楽・スポーツ情報、  
広告 など

### 2) 大都市での問題点

- ビルなどによる難視聴地域をカバーするには
- 昼と夜の住民の違
- 地域ネットワークの現状
- 様々なネットワークの混在（コミュニティーFMの位地）

また、コミュニティーFMが地域において協力なメディアになるには、ラジオ以外のメディアとの連携が大切となる

## ■■最後に■■

このようなコミュニティーFM局が中区に出来れば、地域にとって大変有意義な出来事となる事でしょう。だが、現実的に考えれば、第三セクターなのか？ 資金はどうするのか？ など、考えなければならない事が山積みかもしれません。

しかし巨大地震が予想されている今、人命に変わる物はありません！ しかも自然が相手の事なのでさける事は不可能です。一刻も早く開局を実現させるべきと考える事が地域の将来にとって幸せな事となるでしょう。

中区コミュニティーFMで地域の絆を深め、いざという時には信用ある情報を発信していく事ができれば、地域の活性化、そして減災へつながって行きます。

是非、横浜中区にコミュニティーFM放送局を実現したいと思います。

横浜マリンFM準備室

笹原延介

### ◇◇ 参考資料 ◇◇

- 総務省 電波利用ホームページ コミュニティー放送
  - 総務省 コミュニティー放送局解説の手引き
  - 井上悟 成功するコミュニティーFM放送局
  - 紺野望 コミュニティーFM進化論
  - 金子智子 コミュニティーメディア
  - ヒルズ水島 キミにもできるコミュニティーFM
- その他 ラジオ福島、FM POCO、福島テレビ、などからの聞き取り

### ◇◇ 横浜マリンFM準備室 メンバー ◇◇

- 笹原 延介
- 羽生田 靖博
- 石田 良男
- 山路 清貴
- 村田 進
- 多根 雄一
- 綱島 真人

横浜マリンFM準備室  
横浜市中区本郷町2-38  
045-624-3372  
代表：笹原延介  
<http://marine-fm.com>